



人間科学部 人間科学科

鵜飼 奈津子(うかい なつこ) 教授

日本の大学では珍しい、英国の精神分析的な心理療法を学べるゼミ。地域では虐待を受けた子どもや自閉症の子どもの発達相談

■「英国対象関係論」をベースに、「精神分析的な心理療法」の有効性を研究。

“こころの時代”といわれる今日、特に東日本大震災後は心のケアの必要性が叫ばれています。しかし現在の心理療法の現場では、即効性があり、経済効率が高いとされる「認知行動療法」や「薬物療法」などに注目が集まりがちです。

一方、鵜飼奈津子教授は「英国対象関係論」をベースに、時間のかかる「精神分析的な心理療法」の実践と研究を進めながら、虐待を受けた子どもや自閉症などの発達障害を持つ子どもたちのこころのケアを行っています。「怒っている」「悲しい」「うれしい」など、人間の気持ちを樹で例えると葉っぱのようなもの。さまざまな気持ちの葉っぱには、「小さい頃、お母さんにこんなことで怒られて傷ついた」「幼稚園の頃、こんなことがあった」というような根があり、葉っぱと根は必ずつながっています。「精神分析的な心理療法」は、このように根っこがあって、今の葉っぱにつながっているという考えのもと、根っこから治療していくことを目指します。即効性が期待できるものではありませんが、長期的な予後は良好だという研究結果も出ています。

■ 大学院附属心理臨床センターでは、大学院生とともに地域で発達相談サービスを実施。

大阪経済大学大学院人間科学研究科は、修了後に臨床心理士の受験資格を得ることができる第一種指定校に認定されています。同時に、公認心理師の受験資格も得られます。鵜飼教授は平成23年度より大阪経済大学大学院附属心理臨床センターにおいて、近隣の病院や保健所、学校などと連携しながら、発達相談・研究活動を行なっています。この取り組みは、臨床心理士および公認心理師を目指す大学院生が、より専門性の高い技術を身に着ける実習の機会であると同時に、地域社会に対する発達相談の充実を目指すものとなっています。

■ 日本では珍しい、大学で英国の精神分析的な心理療法を学べる鵜飼ゼミ。

児童養護施設でのボランティア活動を通じて現場に触れながら、実践的に心理療法を学ぶ。

日本ではまだ厳密な意味での心理療法はほとんど行われておらず、鵜飼教授のゼミは、日本の大学では唯一心理療法を本格的に学べるゼミとして、全国から学生が集まってきます。鵜飼教授は、イギリスで日本人では数名しか得ていない「Child & Adolescent Psychotherapist」(子ども・青年心理療法士)の資格を取得し、児童養護施設の子どものために無償で心理療法を行う「認定NPO法人子どもの心理療法支援会」での活動も行っています。ゼミ生たちは、虐待を受け児童養護施設で暮らす子どもたちや知的障害をもつ人たちの暮らす施設やグループホームなどを訪れてボランティアを行いながら、心理療法についての理解を深めていきます。鵜飼ゼミでは、卒業後は臨床心理士や公認心理師を目指して大学院へ進学したり、社会福祉関連の仕事に就く学生が多いのも特徴です。

鵜飼奈津子教授 プロフィール 詳細はこちら⇒<http://webj8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?kyoinId=yimigdyggg>

1966年生まれ、大阪府出身

経歴：The Tavistock Centre Child & Adolescent Psychotherapist (専門職学位UK)

主な著書：『子どもの精神分析的な心理療法の基本[改訂版]』(単著 誠信書房 2017)、

『虐待を受けた子どものアセスメントとケア』(共編著 誠信書房2021)

所属学会：日本心理臨床学会、日本精神分析学会、The Association of Child Psychotherapists(UK)

ホームページ：<http://www.nabwork.com/>

<本件に関するお問い合わせ先>

大阪経済大学 企画部広報課 高濱、東 Tel: 06 - 6328 - 2431 Mail: kouhou@osaka-ue.ac.jp

大阪経済大学 広報デスク (プランニング・ポート内) 福嶋、井上 Tel: 06 - 4391 - 7156

<https://www.osaka-ue.ac.jp>